

<p>請願番号</p>	<p>請願第12号</p>	<p>受理年月日</p>	<p>平成28年2月29日</p>
<p>請願の件名</p>	<p>小・中・高の35人以下学級等の実現について国に意見書の提出を求める請願</p> <p><b>請願項目と趣旨</b></p> <p>35人以下学級を小・中学校、高校で早急に実現するよう、国に意見書を出してください。</p> <p>2011（平成23）年度から、「小学1年生についてのみ『35人以下』」とする国の法改正が行なわれました。また、小学校2年生については国の加配措置による35人学級が実施されています。しかし、それ以降の学年については「40人以下」のままです。</p> <p>宮崎県では現在、小学校1年生と2年生については30人以下学級（35人以下の学年は除外）、中学1年生で35人学級が実施されています。そのおかげで一人ひとりの児童の課題に応じた、きめ細かい指導が行われているところです。</p> <p>しかし、国庫負担が付かないもとの、宮崎県独自の財政措置を行わず、特別な増員なしで実施されているため、小学校高学年では専科教員が配置できなくなる場合があることや、中学校では教員の授業時数が増えるなど、逆に教育条件が低下している面もあります。</p> <p>また、小学2年生から3年生になる時には40人になるため、1クラスの人数が激増したり、2学級も学級数が減ったりするケースもあります。「これまで少人数学級で過ごしてきた児童たちが、3年生に上がって急に落ち着かなくなった」という実態も聞かれます。中学校においても、2年生に上がると40人学級となり、同様の変化が起こり、授業中にざわつく、指導が行き届かないなど、さまざまな困難な状況が生まれています。そして、加配措置での実施では、正規教員の配置にはつながりにくいという難点もあります。</p> <p>えびの市では昨年度から独自に小中学校全学年での「30人学級」に踏み切り、のびのびとした楽しい学校生活、きめ細かい学習・生活指導の実現に効果を上げています。入学時に落ち着かなかった生徒が、3年生になった今では、学習面で力を付けたのはもちろんのこと、諸行事の際に個性を發揮し、見違えるような成長を遂げている実態があります。ゆきとどいた教育のために少人数学級が有効であることは、今や保護者・教職員の常識です。ただし、えびの市の場合も、臨時的任用の講師による実施です。地</p>		

方自治体任せでの少人数学級実施には限界があるのです。

教育の機会均等という立場からも、小学1年生だけではなく、小学2年生以上の小学校・中学校・高等学校の国の学級編成標準を35人とし、財政保障をするべきです。宮崎県議会として、国に意見書を提出するようお願いいたします。

なお、委員会等の審議に際して、要請いただければ時間の許す限り直接説明したいと考えておりますことを、申し添えます

紹介議員

満行 潤一 前屋敷恵美 来住 一人